H21年度　研究主題

コミュニケーションを楽しむ外国語活動

西東京市立芝久保小学校

本校学校長より

1　主題について

2　具体的な取り組みについて

3　研究授業

4　研究成果と今後の課題

5　本年度の研究を終えて

学校長から

昨年３月に、文部科学省より日本中の全小学校の５・６年生に「英語ノート」が配られました。これまで本校が独自に開発した英語活動の指導内容と「英語ノート」に書かれている内容とを、どの様に調整していくか、これを課題としつつ本年度の研究がスタートしました。

この１年間、模索しながらの研究でしたが、その成果と課題について、本冊子にてご報告させていただきます。

１．主題について

○学習指導要領に示されている「基本的な外国語表現に慣れ親しむ」「コミュニケーション能力の素地を養う」「外国の言語や文化を理解する」の３つの中から、いくつかの要素を主題として反映させる。

○外国語を使ってみて通じた楽しさのようなものを取り入れたい。

以上２点を共通理解した上、今年度の研究主題を決定した。

コミュニケーションを楽しむ外国語活動

２．具体的な取り組み（指導上の工夫）

＝低学年＝

●言う・聞く活動が楽しくできるように、ゲームを取り入れる。
●カードを用意して、視覚的に理解できるようにする。
●１つめのゲームは聞く活動が中心、２つめは声に出す活動が中心とする。

＝中学年・高学年＝

●児童が興味をもつ日常場面での例文のやりとりを行う。
●ゲーム的要素を取り入れて、英語で友達とのコミュニケーションを行う。
●視覚的に理解させる。
●アイコンタクトや表情・身ぶりを大切にする。
●クラスルームイングリッシュや ALT のスピーチを授業内に取り入れる。
●授業の流れを意識する。（高学年のみ）

３．研究授業

●低学年分科会（第２学年　国語科　「かたかなで書くことば」）

「外国の文化にふれてみよう」

最初に身の回りにある片仮名で書く言葉を集めました。次に片仮名で書く言葉が、①「チュン、ニャオ」などの動物の鳴き声　②「ガーン、ポチャン」などのいろいろな物の音　③「インド、ソウル」などの外国の地名　④「チーズ、ピアノ」などの外来語の４つに分けられることを学習しました。その中の④外来語を使って、キーワードや仲間集めのゲームを通して、英語の正しい発音や表現の仕方を楽しんで学習しました。

●中学年分科会（第４学年　総合的な学習の時間「英語で遊ぼう」）

「英語を使って伝えることを楽しもう」

毎回の授業の中にＡＬＴの先生のスピーチを入れて、英語の会話に親しみました。最後の買い物の学習では、会話のフレーズの歌を聞いて覚えました。買い物ゲームでは、商品やお金のカードを使い、ロールプレイをしながら、全員がお客さんや店員さんの立場を経験しました。

そのやり取りのなかで、ただ英語を音として使うのではなく、コミュニケーションの道具として使えるよう、話している人とのアイコンタクトを意識しながら学習しました。

●高学年分科会（第５学年　外国語活動　「１学期のまとめ」）

「基本的な表現技法を使い、声に出して伝えよう」

昨年までの２年間での英語活動で覚えた単語を活かすために、声に出して使う場面を想定した、ロールプレイ的な活動やゲーム的要素を意識的に授業に取り入れました。また、１時間の授業の流れを「①復習　②基本例文の復習　③基本例文の一部を発展させて、友達とゲーム的活動をする。④振り返る」のようにパターン化し、児童が見通しをもって授業を受けられる工夫をしました。

４．研究成果と今後の課題

成果

●様々な教材の長所や短所について考えながら教材の選択・授業を組み立てようとする能力が向上したこと。

●英語をコミュニケーションの道具として捉え、ゲームやロールプレイ的な活動を授業に取り入れて効果的な授業を意識しながら授業の組み立てができるようになったこと。

●授業内において、ＡＬＴの有効活用の仕方を意識できるようになったこと。

課題

●低中高で英語学習の指導の系統性が確立していくことが必要である。

●単元にあわせた教材・教具の作成を続けていく。

●ＡＬＴがいない場合の授業の組み立てを考え、指導計画を作成していく。

本校では、数年前から地域の協力者の方に授業に入っていただきながら、総合的な学習の中で、英語活動を進めてきた実績があります。とはいえ、今年度から５・６年生は週１回、他教科と同じように時間割の中に位置づけて学習していくことになり、それぞれの教員が英語に対して抱いている漠然とした疑問や課題に向かう必要性が出てきました。

小学校の段階で、子供たちが英語嫌いになったり、本来楽しいはずの学習に全く興味が持てなかったりという状態は避けたいものです。そのためには、高学年の子供たちに１時間１時間何を学習させていくのか、単元をしっかり組むことが課題として浮かびあがりました。

また、総合的な学習の中で国際理解教育の一環として英語活動をスタートさせる３年生、高学年への橋渡しとなる４年生の子供たちの発達段階に応じた指導のあり方も大切だと考えました。

低学年は「英語」と聞いただけで心がわくわくし、ゲームを喜び、ＡＬＴの発音を聞けば素直に真似して声に出せるこの年齢ならではの良さがあります。裏を返せば、中学年・高学年へと成長していく子供たちに英語の面白さを体験的に感じさせ、学習したという実感を持たせるには、何を大切にして授業を考えていったらいいのか、私達自身が学ぶ必要がありました。

研究１年目の今年は、低・中・高学年３回の研究授業に加え、市内中学校の英語の先生や、本校のＡＬＴ、大学での指導経験のある講師の先生などの３人の先生方にご指導を頂きました。その中で、英語によるコミュニケーションで大切なのは自分の心を声に出すこと（音声による自己表現）とアイコンタクトであることを学んだのは大きな収穫でした。それを、これからの授業の中でどのように体得させていくのか、どのように学習をすすめていくのか、私達が英語についてもっとよく知る必要があります。やればやるほど課題が見つかるのが「研究」ではありますが、今後も研鑽を深めていきたいと考えています。

研究部